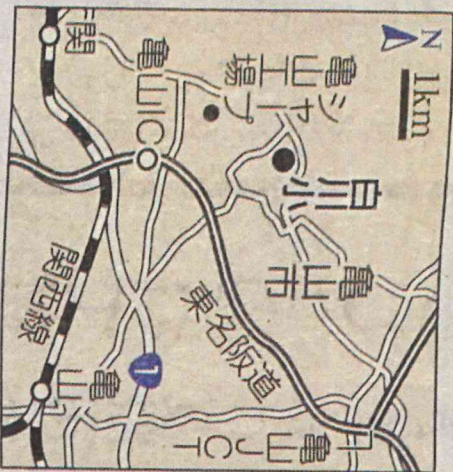


亀山市白川小



昼休みを告げるチャイムが鳴り、子どもたちが元気に教室から廊下に飛び出す。「何する？」「トランプ！」「明日い声が木造校舎に響いた。亀山市中部の郊外にある白川小学校は、一八七六(明治九年)に創立。一九五四年に建て替えられた木造平屋の二棟の校舎では当時の建具を現在そのまま使用しているなど、どこ地域の歴史的な景観を形成しているとして、二〇〇



築70年校舎 人々つなぐ



昔ながらの木造建築が美しい南棟の廊下=いずれも亀山市白川小で

東西58年にわたって建てられた北棟



(横田浩熙)

「小学校あつての白川地区が通っている。小学校あつての白川地区と学校運営協議会長の浅野重信さん(左)。築約七十年の校舎が住民と教職員、児童をつなぐ絆になっている。

支えてほしい」と期待する。本年度の全校児童は四十二人。記録が残っている一九六六年度の百二十六人と比べ、三分の二程度に減った。少子化、高齢化もあり、校区内の人口が減少する中、児童数を維持するために市内で唯一校区外からの就学を認める小規模特認校でもある。地域の自然を生かした多岐にわたる体験学習やきめ細かな指導などに引かれ、現在は校区外から七人が通っている。

九年に国の登録有形文化財に指定された。「白川小出身」と言い代わりに「僕もこの住民もいるという。授業では、住民と関わる機会が多い。炭焼きや田植え、芋掘りなどを地域の大人たちが

が講師となって教える。キヤリア教育の充実や発展に尽力したとして昨年度、文部科学大臣表彰を受けた。平野校長は「子どもたちが大人になったら、地域の人として後輩を

水中に転落「背浮き」

「息をしっかり吸って」をせた。

講習会は毎年、希望する

松阪で15、16日

「あし露がス町る。後るの交三み宵が